

## 令和4年度 第1回芽室町環境審議会議事録

日時 令和4年10月20日（火） 15時30分から17時まで

場所 めむろ駅前プラザ（めむろーど）3階レファレンス室

### ○会議次第

#### 1 開 会

齋藤 和也 環境土木課長補佐

#### 2 会長挨拶

貫田 正博会長から挨拶

#### 3 報告事項

（1）第5期芽室町総合計画（環境部門）の評価結果について

（2）芽室町地域新エネルギービジョン中間評価報告について

（3）芽室町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）進捗状況について

#### 4 協議事項

（1）令和5年度実施予定 重点取組事項について

#### 5 その他の事項

#### 6 閉 会

齋藤 和也 環境土木課長補佐

### ○出席委員（敬称略）

貫田 正博	高井 宏司	阿部 浩	砂金 新一	森住麻友美
福間 智子	村瀬 雅道	井上 貴明	塚本 元一	後藤 勝幸

### ○欠席委員（敬称略）

佐藤三千子 白木 一英 大橋 一博 高橋 好明

### ○傍聴人

0人

## ○町側出席者

橋本 直樹 環境土木課長  
齋藤 和也 環境土木課長補佐兼生活環境係長  
飯野 希斗 環境土木課生活環境係主事

## ○会議要旨

### 報告事項

- (1) 第5期芽室町総合計画（環境部門）の評価結果について  
齋藤補佐から資料に基づき報告。委員からの質問等は特になし。
- (2) 芽室町地域新エネルギー・ビジョン中間評価報告について  
齋藤補佐から資料に基づき報告。

### 【委員からの質問】

19ページ「バイオガスプラントを含む家畜ふん尿処理施設を建設した町内農家に  
対して、奨励金を交付されることとなった」とあるが、どのような内容か。  
→現在の詳細について、担当課（農林課）に確認して対応する。

26ページ「二酸化炭素排出量の実績および削減量の比較」の中で、家庭部門の削  
減量が大きいが、この理由について把握しているか。  
→具体的な理由について調査は行っていないが、自宅の照明が白熱電球からLED照  
明になって電気使用量が節約されたり、家電製品が省エネルギー型製品に置き換わ  
ったりするなど、様々な要因があると考えられる。

芽室町の町民に対する家電製品の販売店からの出荷量等については、何かデータ等  
はあるのか。  
→各家庭における販売店での家電製品購入実績等の資料はない。

- (3) 芽室町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）進捗状況について  
齋藤補佐から資料に基づき報告。委員からの質問等は特になし。

## ○協議事項

- (1) 令和5年度実施予定 重点取組事項について  
齋藤補佐から資料に基づき報告。委員からの質問等は特になし。

## ○その他（各委員からの環境・ごみなどに対する意見・感想）

### 【委員】

家庭での取組、学校・町内会・老人会でのごみ分別に対する取組は必要であると思っている。私自身、高齢者等の支援関係の仕事（手伝い）をしており、その中でもごみを分別して出せない家庭がある。また、高齢者に対する分別の件や、自分でごみステーションへ排出することができない問題もある。

高齢化社会に伴い、ごみを出すまでの諸問題への検討を町としての課題として考えてもらいたい。

### 【委員】

野菜などでも形の悪い物を捨てないで利用することも、ごみ減量化の1つと思う。

いつの時期になっても、ごみの解決はなかなか難しいと思う。

### 【委員】

家庭でのことを言えば、ごみの削減の勉強をして家庭での削減を試みてはいるものの、ここ何年かを振り返ってもごみを減らせたという実感はないし、やれることはやっていっていると思っている。

生ごみを乾燥させて減量化に対応することや、たい肥化するコンポストも使ってみたいような気もするが、なかなか取組には至っていない。環境にはやさしいことだが、なかなかできることではないと感じる。

今年、家族が新型コロナウイルスに感染したが、家族全体でコロナになってしまったら、レトルトなど簡単にできる食事が多くなり、その結果、ごみはけっこうな量になってしまふ。母親の立場からすると楽なことではあるが、楽した分だけごみが出ると思う。

また、学校で勤務していることもあり、給食のことについて言えば、アレルギーではなくても偏食がすごい。パンが出ても、一口・二口食べるとあとは捨ててしまう。親の価値観などもあるが、食品ロスのことも交えて勉強すると、子どもは聞いてくれる。

### 【委員】

自分で分別を正しくしようと努力しても、ごみ自体は減らない。一般の個人レベルではこのあたりが限界。したがって、ごみを減量化したいのであれば、商品を作っている事業者側に頑張ってもらうしかないのでは。

『脱炭素』という意味では、現代は電気を使わない生活はあり得ない。電気を使わないと何も始まらない。スマートフォンは重要であり、充電も必要。太陽光発電など、どのような手段が良いかは分からないが、自然エネルギーが使えるといいと思う。

### 【委員】

事業所的には、新型コロナウイルスの影響でイベント等が開催できなかった反面、イベント関係のごみが排出されない分だけ減量化されている。しかし、またイベントが始まるとごみが増える。最近は、ペーパーレス化が増えている。

業務関係で言えば、作成データなどはパソコンへの保存で済む形になるので、紙の使用量が減ったと思う。それ以外のことでは、事業所の電気代は大きなウエイトを占めており、ＬＤＥ化など、コストをかけながら節電していたが、昨今の電気代高騰で全部飛んでしまった。

一般家庭で言えば、資源物回収の資料説明で新聞や雑誌の回収量が減ったとの説明であったが、ここ数年で新聞に折り込まれるチラシの量も減ったと思っており、そのことも大きな要因ではないか。

### 【委員】

家庭におけるダンボールの排出量が多くなったのは実感するところ。

インターネットが普及する中で、ネット購入によりダンボールがたまることは仕方ないところではあるが、生活する上ではごみは出てしまうもの。

しかし、その中でもやはり自らが排出するごみを少なくしようという意識を持つことが大切なので、私自身そういう意識を持っていきたい。

### 【委員】

ほかの委員から、事業系ごみのリサイクルの話があった。

企業活動でいえば、ごみは一般廃棄物と産業廃棄物とに分けられるが、一般廃棄物の中でも金属類はスクラップし、ダンボール、オイル系については別途業者に引き取ってもらい、その他の物は一般廃棄物の収集業者に引き取ってもらっているが、分別は「燃やすごみ」「燃やせないごみ」の2種類に分けて排出している。

量的に多くないものは、そのように排出。過去には町の分別方法に合わせて分別していたが、事業系は可燃・不燃の区分だけで良いことが分かり、それもやめた。

事業者側の対応とすれば、ごみの量が抑制されるよう、できることはやっている。消費者ニーズとして、メーカー側の容器包装を時代に合ったものに検討してほしいという要望はある。ユーザーの意見を取り入れながら検討したいが、一気に変えることはできないので、できるところから取り組んでいる。

現在は少人数の家族となり、小分け（小さなサイズの商品）を望む方が多い。そうするとごみが増える。時代に逆行したことにもなるが、ニーズと環境を考えながら取り組んでいる。事業者として、もう一步踏み込みながらやっていきたい。

### **【委員】**

当事業所では、レトルト食品や加工野菜を扱っており、廃棄物と考えると、野菜は食べられないところがあり、18,000トンある食品残さが、家畜飼料やたい肥になる。有価物になるのは数%であり、ほとんどはリサイクルされる物である。

中には、リサイクルされない物もあるが、あとは製品の製作ミス（不良品）が出ることがあり、それは廃棄されることとなるため、不良品を出さないよう精度を上げる取組を行っている。製作ミスがあると袋もダメになるので、ごみにならないよう、そのような物をどれだけ減らすかということに努めている。

また、先ほどの委員と同様、家庭が少人数化すると少ない物を求める事となり、結果、500g入りの製品であったものが300g、200gへと変わっていく。

現在も、ジッパー付きの製品については、少ない量への商品に置き換えている。

### **【委員】**

自分自身で危惧しているのは、地球温暖化による気象変動、異常気象である。

町に対しては、これからも新エネルギー対策に積極的に取り組んでいただきたいという思いである。

一方で、私自身が住んでいる町内会として、今回、芽室町内のごみの排出量の推移を資料で説明してもらったが、資源物回収されている物の中には、新聞・雑誌など、回収量が減少している物もある。また、町内会からの排出量全体が減っているのは、活動が下火になっているのが理由なのか、そもそも各家庭の資源物の量が減っているのも原因なのかなは分からぬが、資源物回収事業については、積極的に町内会や個人にPRしてもらいたい。

町内から排出されるごみの処理量が多くなると、十勝圏複合事務組合へ支払う負担金も増えることになるので、資源物回収の取組をぜひ継続していただきたいと思う。

### **【委員】**

現在、くりりんセンターの建替えが話題となっており、300億円を超える建設費になると聞いているが、委員から話のあった十勝圏複合事務組合への負担金について、芽室町はどのくらい増えることになるのか。

今後は、年々建設費が増えることとなる。将来的に建設費が現在の試算の3～4割増しになるのではないか。実際の建設費シミュレーションが変わる。

→新中間処理施設の建設、及び建設費については、令和9年度末での施設完成を目指して進んでいるところであり、その費用は300億円を超える額が試算されている。

一方で、芽室町は広域（十勝圏複合事務組合）によるごみ処理事業を行い、構成市町村で処理費用等を負担しているが、この施設建設費の積み立てなどもその負担金の中に含まれている。そのため、具体的な負担金額は示されていないが、負担金額は増え

ると想定するものの、芽室町の負担金額は大きく増額しないものと現時点では考えている。

その他、特になし。

17時00分 終了